様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２１１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１１１０２

研究課題名（和文）院内デイケアでのコンフォートケアの経験による看護師の日常ケアへの波及効果の検証

研究課題名（英文）Examining the spillover effects of the Comfort Care experience in an in-hospital day care on nurses' daily care.

研究代表者
出貝　裕子（Degai, Yuko）

青森県立保健大学・健康科学部・教授

研究者番号：４０３１５５５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：医療機関に勤務する認知症看護認定看護師や老人看護専門看護師を主な対象として、質問紙調査とインタビュー調査を実施した。これらの調査から院内デイケア運用上の課題や院内デイケア担当者による病棟看護師との協働内容、多職種を巻き込む働きかけ内容を抽出した。また、院内デイケア担当ではない病棟看護師の患者への関わり方や患者に対する理解が深まる等変化が明らかになった。これらの調査結果を基盤に、介入研究を実施中であり、介入前後での病棟看護師の実践の変化から病棟への波及効果の有無を検証予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
院内デイケアは、入院・治療という脅威となりうる環境下にある高齢患者・認知症患者の回復および安楽を促進すべく、各医療機関が主体的に提供しているケアである。院内デイケアの導入・運営上の課題とコツを提示できたことは、院内デイケアの普及に寄与できるものと考える。また、院内デイケアの患者における成果は、少数ながら報告があった。これに加えて、病棟看護師のケアの変化を記述的ではあるものの明らかにできたことは、院内デイケアが、医療機関における認知症ケア・高齢者ケアの質向上につながる可能性があることを示唆していると考える。

研究成果の概要（英文）：A questionnaire survey and an interview survey were conducted mainly among certified dementia nurses and geriatric nurse specialists working at medical institutions. From these surveys, we extracted operational issues in in-hospital day care, the contents of collaboration with ward nurses by in-hospital day care staff, and the contents of efforts to involve multiple professions. In addition, changes in the way in which ward nurses who are not in charge of in-hospital day care relate to patients and their understanding of patients have deepened were also identified. Based on these survey results, an intervention study is currently underway to examine whether or not there is a ripple effect on the hospital wards based on the changes in the ward nurses' practices before and after the intervention.

研究分野：老年看護

キーワード：院内デイケア　認知症ケア　医療施設

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

急性期治療を受ける認知症高齢者は認知症による心理行動症状（BPSD）を引き起こしやすく、入院期間の延長につながりかねない。それに対し、認知症患者のサーカディアンリズムを整え、回復を促進する取り組みのひとつが、いわゆる院内デイケアである。院内デイケア取り組み事例の報告が増加している。しかし、院内デイケアの系統的なケア提供システムは構築の途上にあり、認知症患者のコンフォート実現に向けたケアと院内デイケアを融合し系統的な院内デイケア提供システムを構築し、長期的な効果を含めた有用性を検証する必要がある。

２．研究の目的

（１）日本の医療機関で提供されている院内デイケアの対象患者、実施方法の実態と院内デイケアを継続的・効果的に提供するための実践知を明らかにし、系統的な院内デイケアプログラム構築に向けて示唆を得ることを目的とする。

（２）院内デイケア提供システムを導入することによる病棟ケアスタッフへの波及効果として、認知症ケア実践の変化を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

（１）説明的順次的デザインの混合研究法を用いた。下記の①②によりデータ収集した。
①老人看護専門看護師（GCNS）・認知症看護認定看護師（DCN）所属医療機関約 1100 施設を対象とした WEB 調査。②院内デイケアのグッドプラクティスとして紹介のあった病院の担当者を対象にした半構造的面接。

（２）前後比較デザインの介入研究を用いた。介入として、院内デイケア導入のために、研究協力施設看護管理者とニーズ、患者特性、人的リソース、院内の環境等について共有しながら、院内デイケア提供システムを検討し導入するまでのプロセスをともに取りくんだ。

データ収集は、病棟看護職及びリハビリテーション部門職員を対象に、介入前調査を自記式質問紙調査により実施した。介入後調査を 6 か月後に実施する。

４．研究成果

（１）WEB 調査では、272 名からデータが得られた（回収率 24.7%）。施設内デイケアを実施していたのは 38 名（14%）、Covid-19 パンデミック前までは実施していたのが 51 名（18.8%）で約 3 割の病院で実施していた。現在あるいは過去に実施していたとする回答は、500 床未満の病院に多い傾向があり、特に特定機能病院での非実施割合が高かった（図 1・2）。実施しているあるいは Covid-19 パンデミック前までは実施していた 89 名のデータを分析した。院内デイケアの目的で最も多かったのは「生活リズム調整」で次いで「離床促進・活性化」「BPSD・せん妄予防・改善」であった。開催頻度は、週 1 回が最も多く（40%）、1 回の時間は中央値 60 分であった。実施していた対象者の内 81 名（91.0%）が施設内デイケアは参加した患者に効果があると認識していた。しかしながら、評価方法は担当者の主観的な判断によることが多く（62%）、患者成果の評価が困難であることが課題として挙げられた。また、この取り組みによる病棟看護師への波及効果として、病棟看護師が患者の活動性向上や気分転換活動のためのケアが増えたこと、認知症患者のストレングスをとらえようとすることが強化されたこと、患者の新たな側面や生活背景に気づき患者理解が深まったこと、患者とのコミュニケーションが増えたこと等が報告された。

インタビュー調査では 8 名の看護師からデータが得られた。院内デイケアを始動する際に提案したのは、看護管理者と認知症看護認定看護師であった。分析した結果、プロジェクト始動時及び運営上の実践知が抽出された。開始時に実施していたのは、関係者へのアピール（個人的な提案ではないという形/需要があることを言語化/実施できそうな方法で提案/病棟の業務負担軽減のメリットを強調/身体抑制軽減の可能性等）するとともに実現可能性の判断をし、関係者間で共通認識が持てる工夫等であった。また院内デイケア担当者が取り組んでいた病棟看護職との連携として、「病棟との協力の応答」「意図的な情報共有」「病棟看護師への院内デイケア周知と推進の

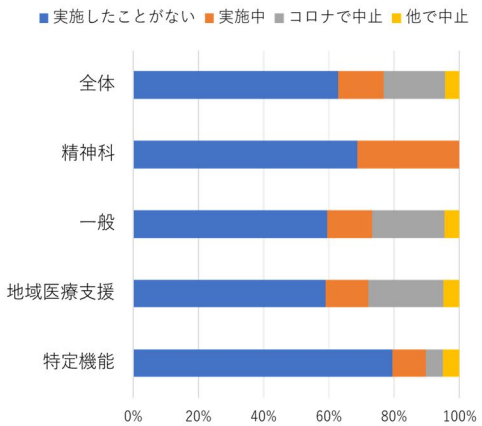

図１　病院の種類別実施率

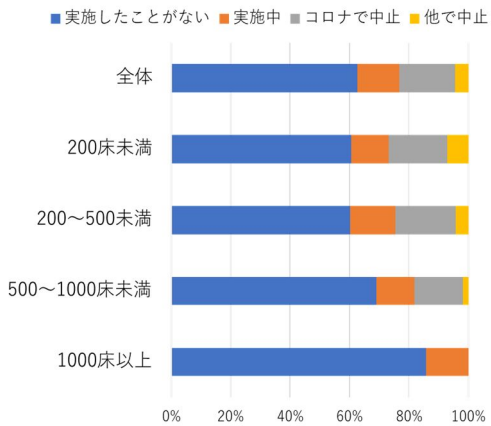

図２　病床規模別実施率

関わり」「病棟全体の認知症ケアの質向上を目指した関わり」（表１）が抽出された。

表１　院内デイケア担当看護師が実践している病棟看護職との連携

カテゴリー	サブカテゴリー
病棟との協力の応答	病棟との協力の応答
意図的な情報共有	患者理解を促進する情報共有 看護師に共感を示す情報共有 評価のための情報共有
病棟看護師への院内デイケア周知と推進の関わり	病棟看護師に院内デイケアとは何かを知ってもらう努力 病棟看護師の判断に対するフィードバック 院内デイケア実施に伴って生じる病棟看護師の業務に関わるメリットとデメリットの把握 病棟看護師に身近なケアであるための取り組みやすさの工夫
病棟全体の認知症ケアの質向上を目指した関わり	若手看護師への教育的支援 日常の認知症ケアに対する継続的な質向上への志向 院内デイケアを体験から学ぶ機会としての活用

（２）（１）の調査から得られた知見を基に、院内デイケア導入を検討している病院を対象に介入研究を実施した。介入として、ゲートキーパーである看護部長に対し、院内デイケア導入・継続における課題を説明し、自施設に置き換えた際の課題解決とともに、自施設における院内デイケア運営方法を検討してもらった。導入にあたり他施設見学の支援等を調整し導入に向けた準備を整えた。導入後、月 2 回のペースで 3～5 名の参加者に対し院内デイケアを継続している。院内デイケア導入前ベースライン調査では 75 名（回収率 56.5%）からデータが得られ、アウトカム評価と比較し、効果について評価する予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Ken Narisawa, Saori Nakagomi, Shiho Tokunaga, Mariko Otsuka, Yuko Degai
２．発表標題 Perceptions and Challenges of Nurses Regarding the Effect of In-Hospital Daycare
３．学会等名 The International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 出貝裕子,大塚眞理子,徳永しほ,成澤健,沢田淳子,大橋幸恵
２．発表標題 高齢者を対象とした「院内デイケア」に関する文献検討
３．学会等名 日本老年看護学会第26回学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中込沙織,出貝裕子,成澤健,徳永しほ,大塚眞理子
２．発表標題 COVID-19流行下における院内デイケアの実態
３．学会等名 日本老年看護後学会第28回学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 徳永しほ,出貝裕子,成澤健,中込沙織,田守梨絵,大塚眞理子
２．発表標題 院内デイケア担当看護師が取り組んでいる病棟看護職との連携
３．学会等名 日本老年看護学会第29回学術集会
４．発表年 2024年

１．発表者名 Yuko Degai, Ken Narisawa, Saori Nakagomi, Shiho Tokunaga,Mariko Otsuka
２．発表標題 Ripple effects of small group care for patients with dementia in hospital on ward nurses
３．学会等名 Alzheimer’s Association International Conference (2023)（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大塚　眞理子 (Otsuka Mariko) (90168998)	長野県看護大学・未登録・学長 (23601)	
研究分担者	成澤　健 (Narisawa Ken) (90584491)	宮城大学・看護学群・助教 (21301)	
研究分担者	徳永　しほ (Tokunaga Shiho) (90805491)	宮城大学・看護学群・助教 (21301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関